

令和5年9月議会 9月5日(火)～14日(木)

《主な議案》

●第48号議案 令和4年度神川町一般会計歳入歳出決算の認定について

反対 川浦雅子 賛成多数可決

【反対討論要旨】今、公共施設は修繕しながら活用する方向にあるが、ステラ神泉の施設を閉館したことは、住民の財産として大きな損失と考える。また、若者がこの町に住み続けられる環境整備や農商工業の振興に思い切った施策が必要であった等。

●第49号議案 令和4年度神川町国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について

反対 川浦雅子 賛成多数可決

【反対討論要旨】住民の負担軽減、特に子どもの均等割り減免の拡大に努めるべき等。

●第50号議案 令和4年度神川町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の認定について

反対 川浦雅子 賛成多数可決

【反対討論要旨】加入者の一部負担割合は3種類で差別と負担増のこの制度そのものに反対。

●第51号議案 令和4年度神川町介護保険特別会計歳入歳出決算の認定について

反対 川浦雅子 賛成多数可決

【反対討論要旨】多くの高齢者は年金天引きでの保険料徴収であり物価高騰の中、負担は限界である。負担軽減に努めるべきだった。

●第43号議案 令和5年度神川町一般会計補正予算

反対 川浦雅子 賛成多数可決

【反対討論要旨】小学校統合関連予算があり丁寧な進め方ではないと考える。

●第44号議案 令和5年度神川町国民健康保険特別会計補正予算

反対 川浦雅子 賛成多数可決

【反対討論要旨】マイナンバーカードの健康保険証ひも付け周知の経費であるため。

●第57号議案 物品購入契約の締結について

反対 川浦雅子 賛成多数可決

【反対討論要旨】マイナンバーカードの利用で申請書自動作成というが、窓口職員の対応は必要であり、本人以外は使えないため。



かみかわ民報

2023年10月発行

No. 35

日本共産党

連絡先

0495 (77) 2248

川浦 まさこ



生活相談も
しております!
お気軽に
ご相談ください!



※日本共産党の見解を紹介します

Pick up!

請願「適格請求書等保存方式(インボイス制度)の実施延期を求める意見書」の提出を求める請願書

総務経常委員会付託 請願審査結果「採択」 賛成 川浦雅子 賛成多数 可決

【賛成討論要旨】消費税は逆進性が強く、所得にではなく売り上げに対し課税される。所得ゼロや赤字でも納税となり、応能負担の課税原則に反する制度だ。免税業者は年間売り上げ高が1000万円以下の零細業者であり、多くは極めて立場が弱く、取引先の企業に適正価格など要求できない。このような実態をだささないままインボイス制度を強行すれば、零細業者はますます苦境に陥る。神川町も多くの中小業者等に支えられている。地域経済の発展の妨げになるインボイス制度の実施延期を求めるため、委員会の採択に賛成する。

●議案 適格請求書等保存方式(インボイス制度)の実施延期を求める意見書提出について

賛成 川浦雅子 賛成多数可決

【賛成討論要旨】物価高騰の中、中小業者はゼロゼロ融資返済の本格化にあえいでいる。この状況で実質1兆円ものインボイス制度導入による増税は許されない、この思いを政府に届けるすべとして賛成。



裏へ続く

●図書館について

【川浦】神川町は「生涯学習のまち」を宣言しています。しかし生涯学習の拠点となるべき公共図書館がありません。7月に文教厚生常任

委員会でも県内の小川町と三芳町の町立図書館を視察しましたが、図書館の人が集うサービスの場として位置付ける動きは全国で進んでいます。住民が求める情報を提供し住民の知る権利を保障する重要な教育施設です。優先順位と言われますが、多くの自治体で整備されている図書館に対する、神川町の認識は、優先順位から外れるものですか。今ある図書館は身近な図書館分室として活用しつつ、図書館を既存の施設利用等も含め、整備をし、司書の配置もして頂きたい。

【町長】中央公民館は平成元年5月に建設されました。今後優先順位や費用対効果等様々な角度から、新設でなくとも既存施設の利用も視野に入れながら検討します。私も小川町図書館に行ってきました。事業費、運営費等で大きな事業です。私自身も町に大きい図書館があればと思ったことはあります。公共施設の在り方はこれから検討に入ります。図書館だけでなく、生涯学習センターのような文言もありませんので、もう一度研究します。

【教育長】私も三芳町と小川町にいったきました。素晴らしい図書館でした。図書館がすごく大事だとわかってはいますが、なるべく身近なところで借りられることが一番大事かと考えます。巡回図書等町の人口状況に対応した図書サービスも必要です。電子図書館は埼玉県で神川町が一番か2番の導入でした。家においても自由に本が読める返却もできます。子どもへのサービスは保育所、幼稚園に50冊くらい貸し出し、親子10分の読み聞かせ、寝る前の何分でもよいからと保護者に話しましたので、公民館の児童書の貸し出しが多くなりました。

町民にはもっと利用しやすい工夫を職員と相談しました。図書館があるのはいいと思いますが、優先順位もあると思います。

●性犯罪防止について

【川浦】近年意思に反して性的画像を撮らせ、送信させる等、デジタル性暴力等におけるグルーミング(ジャニーマル君)の性加害問題で立場の弱いものを手懐ける意味として使われるようになった。国連人権理事会の調査によると被害者は数百人に及ぶとされている等が問題となっています。また、内閣府と文部科学省は連携で「生命の安全教育」として性犯罪、性暴力対策の強化を打ち出し、今年度から本格実施となつていきます。人権問題としてとらえ、包括的性教育にも力を入れて頂きたい。被害防止の一番は加害者を出さないこと、身体画像を送つてなどと言ったら加害者だとしてほしい。被害にも遭ってしまつても一人で抱え込まず相談してほしい。そして被害者を責めない、悪いのは加害者です。神川町から加害者も被害者も出さない学校と町の取り組みを伺います。

【町長】性犯罪を見直す刑法党に關連する法律が本年7月13日に施行されました。性交同意年齢の引き上げや配偶者間においての不同意性交罪の成立要件の明確化、わいせつ目的の若年者を懐柔する行為に關わる罪の新設、控訴時効期間の延長等の改正です。また、性的姿態撮影等処罰法では、性的な姿態を撮影する行為に關わる罪やその映像の保管、映像の送信等についても犯罪要件が規定されました。SNSが発達し、簡単にこういった犯罪が起きやすい状況です。改正内容の周知により、加害者、被害者を出さない注意喚起と、被害者への支援、相談先を町のホームページでまた機会あるごとに周知啓発します。

【教育長】神川町の小中学校では、埼玉県からの性犯罪性暴力防止に關するリーフレットを保護者に配布し、校長から説明を行い、児童生徒、保護者に周知、啓発を行っています。また教職員には、文部科学省の示す教職員等による児童生徒性暴力等の防止等に関する基本的な指針に基づいて啓発の強化を厳しく実施しています。今、性に関する子供たちの被害はスマホで友達の写真を撮ったり、自分の身体を撮る等全国で動画や写真がSNSで流れてしまふ。それは取り返しのつかないことなので繰り返し教育していきます。また、身体づくりだけでなく、相手を尊重する、嫌がることをしない等基本的な人権意識、包括的性教育がすごく大事だと思つていきます。研究し、課題にします。

●農業振興について

【川浦】気候変動やロシアによるウクライナ侵攻等を受け、食料の多くを海外に依存している日本は将来的にわたって食料の安定的な供給に危機感が強まっています。食料をお金を出せば買える時代ではなく、なつてきている中、日本の農業の担い手不足も深刻な問題です。農業者が苦しむ離農する中でも国は酪農家に生乳の生産抑制を求め、一方で、14万トンものカレントアケセスの生乳品の輸入を続け、また米農家に転作を求めながら77万トンのミニマムアケセス米の輸入をやめません。また、小麦等輸入元で大干ばつになれば、輸入が困難になります。日本の農業を守り、気候危機対策の農政に転換するときだと考えます。世界でも日本でも環境負荷低減を目指した取り組みが進められています。千葉県いすみ市や茨城県かすが市がうら市は有機農業の先進地です。また、県内の三芳町は、落ち葉堆肥が7月に世界農業遺産に認定され、小川町は酒造りや有機農業が盛んだそうです。

神川町でも少しづつでも持続可能な農業と若い方の新規就農に力を入れて広げて頂きたい。神川町の農業を発展させるため、様々な視点が必要と思ひ伺います。

【町長】離農防止は農業所得の向上と自然災害による農業被害への補助等の実施で、農家が安心して営農を続けられる様支援を行っています。環境負荷低減事業の取り組みの一つ有機農業等は手間がかかる、収入が減る、販売価格が高額である。安定した販路の確保が難しい等課題はありますが、農産物の輸送距離を縮める等も環境負荷低減につながるの、地元の良いものを購入する等の意識改革等が環境保全型農業拡大に期待できると考える。ただ、これらに取り組み町の農業を発展させたいという意見は、そのとうりだと思ふので、担当課と農家と相談しながら進めたい。

【経済観光課長】有機農業は神川町は難しい点があります。地区全体的に減農薬を行う等、周りの農家が一体で行わないといけないものです。いすみ市には以前農業委員会で視察研修に行きました。今後、農家と話し合い有機農業を広げられるよう検討します。

※ひとこと※

足指体操☆



秋の寒暖差に十分気を付けて過ごしましょう♪

